



沖縄在来種の「大豆復活」で 地域をもっと元気に！

愛する町のために、地域の元気のために、一生懸命活動している人がいます。このコーナーではそれを「沖縄のげんき仕掛人」と呼び、ユニークな活動を応援していきます！



げんき NPOならではの
フットワークの良さを発揮

りを行っていたことがわかったんです。波平さんの提案を受け、地域の「コミュニティを活性化しよう」と「あたいぐわープロジェクト」が始動。ちなみに「あたいぐわー」とは猫の額ほどの庭という意味で、家々の庭先で大豆を植えることから付けられました。

げんき 大豆の復活を通じて
広がった地域の輪

在来種の大豆は「青ヒグー」と「高アンドン」の二つ。まず、わずかに残る一〇粒の青ヒグーを県農業研究センターから譲り受けた波平さんが自宅の庭で栽培し、大豆を二〇〇粒に増やすことに成功。それを繁多川地域の庭に引き継ぎました。一度は全滅したこともありますが、専門家の



プロジェクトに携わる宇根克館長、大城喜江子さん、大学講師の波平エリ子さん、波平元維自治会長

開発が進む那覇市内にありながら、緑や湧き水に恵まれたのどかな風景が広がる繁多川。繁多川公民館の講座から生まれた「あたいぐわープロジェクト」は、沖縄在来種の大豆復活と地豆腐再現への取り組みです。広がりを見せる取り組みについて、同公民館の企画・運営を行う大城喜江子さんにお話を伺いました。

NPO法人
なはまちづくりネット
大城 喜江子 さん
(写真左から2人目)

1955年那覇市出身。首里高校で染織を学び、和裁も習得。首里城絵巻行列の衣装縫製に関わる。1997年那覇市社会教育指導員。2004年NPO法人なはまちづくりネット設立に参加、那覇市繁多川公民館の講座企画、運営等業務を受託。那覇市子ども会事務局長、沖縄県婦人相談員、那覇市第四次総合計画審議委員を歴任。

大城さんと繁多川公民館との関わりは、現在代表を務めるNPO法人が那覇市の公民館事業の運営を受託した三年前のこと。那覇市の公民館での非常勤職員の経験や、地域活動の実績を生かし、繁多川公民館の講座企画や運営など行っています。繁多川の歴史を掘り起こそうと企画した最初の講座『繁多川見聞録』では資料がほとんどなく困り果て、沖縄大学・沖縄国際大学で民俗学の非常勤講師を務める波平エリ子さんに相談。その助言を受け「地域の方に聞き取り調査を実施し、それをそのまま講座にしました。その中で、繁多川では在来種の大豆を使って豆腐づく

指導を受けたり、自治会や地域の人々の協力によってようやく結実。続く高アンドンも次々と実らせています。他の大豆と違って年に三回収穫できる二つの在来種は、栽培二年目を経て今年六月には目標の一〇キロに達する予定です。

「大豆が増え始めたなら地域がにわかにも動き出し、育てる方以外にも、豆を挽く臼などの道具を提供してくれる方、脱穀に使う当時の道具を手作りで再現する方など、大豆をきっかけに輪が広がった」とうれしそうに語る大城さん。協力者は自治会長の波平元維さんや農具を作った与儀喜邦さんから中心メンバーを含め、ほとんどが男性。「互いの畑を訪問するなどして会話や交流が増え、地域の男性たちが元気になるましたね」。

げんき 気づきのある講座で
真の地域づくりを

プロジェクトのユニークな取り組みは、「ストップ温暖化一村一品大作戦二〇〇八」の沖縄県大会グランプリとなり、全国大会でも優秀賞を受賞。在来種大豆の復活が地産地消につながり、食料の輸送燃料やCO₂を削減できることが評価されました。歴史や文化の掘り起こしがエコ活動へと広がったのです。

「ただ楽しい、ではなく、講座には気づきのある学びを織り込むことを大切にしています」と大城さん。繁多川自治会では十二月を「とうふの月」として、昔ながらの豆腐づくりを行ったり、公民館や学校などを巻き込んで、いつか「とうふサミット」を開



復元された昔の農具「クルマンボウ」で大豆を脱穀する地域の子もたち



収穫された沖縄在来種の大豆「青ヒグー」の殻と小粒の青い実



大豆を載せるゴザ「ニクブク」も地域のメンバーが見よう見まねで復元



成人講座「繁多川見聞録」では石臼で大豆を挽く昔ながらの豆腐づくりも再現

催する夢も膨らんでいます。近隣の小学校の花壇に大豆を植え、地域の皆さんが育て方や収穫を手伝いながら、教育現場と地域が長く交流できるような働きかけも行っているそうです。

大城さんは、「私たちはきっかけを作っただけ。地域の皆さんが地域の宝に気づき、主導権を持って取り組みを進めていくこのプロジェクトは本当に理想的」と目を輝かせます。緑豊かな街並みや独特の文化だけでなく、下町ならではの人情も厚い繁多川。再現される豆腐の味もきつと味クーター（滋味豊か）なことでしょつ。

沖縄県広報誌 平成20年4月1日発行第32巻4号通巻391号

編集後記

巻頭ページでは、12回にわたり県産の旬の食材とレシピを紹介してきましたが、いかがでしたか。他にも紹介できなかった栄養満点の食材が沖縄にはたくさんあります。4月から生活環境が一変した方も「地産・地消でチャーがんじゅ〜」を目指しましょう!(R)

休日にデパートへ行くと、色とりどりのランドセルが飾られていました。赤、黒はもちろん、空色やピンク、淡いところでは抹茶色!ランドセルがおしゃれになっていました。もしかして、「月曜日にはピンク、火曜日はオレンジ!」って言う子も出てくるかもしれませんね〜(ノア)

企画・編集 沖縄県知事公室広報課
発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570
那覇市泉崎1-2-2
電話 (098) 866-2020

制作・印刷
株式会社エマインタープライズ
〒900-0006
那覇市おもろまち1-5-26
電話 (098) 868-9332

